

「総論—世界の捕鯨の歴史と現状」

岸上伸啓（国立民族学博物館）

生物学的には、クジラとはザトウクジラやホッキョククジラのような大型クジラのみならずシロイルカやオキゴンドウなどイルカを含む、哺乳類のくじら目に属する海棲動物の総称である。クジラ（鯨類）は大きさも習性も多様であり、現在、約 85 種類が同定されている。人類は少なくとも 5 千年前からクジラを利用してきたが、世界各地で積極的に大型クジラの捕獲を開始したのは今から 1000 年ぐらい前のことである。そして 1982 年に国際捕鯨委員会（IWC）が 13 種類の大型鯨種の捕獲の一時停止を決定し、一部の例外を除けば大型鯨種の商業捕鯨は行われていない。その一方で、IWC の調査捕鯨や先住民生存捕鯨、IWC の管轄下以外の大型鯨類の捕獲や小型鯨類の捕獲は現在でも行われている。本発表では、世界各地の捕鯨の歴史と現状を 3 つの時期に分けて概観する。その時期区分とは、(1) 人間がほとんどクジラを利用しなかった時代（～10 世紀以前）、(2) 人間がクジラを積極的に利用した時代（10 世紀～20 世紀後半）と (3) 同クジラの保護時代（20 世紀後半～）である。その上で、現代の捕鯨をめぐる問題点を整理する。